



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：警察長官がシドニーで発生した立てこもり事件の犯人像について言及

12月16日、イランのエスマーイール・アフマディー=モガッダム警察長官は、15日にシドニーで発生した立てこもり事件の犯人について、実行犯はイランが長年追ってきた人物であることを明らかにした。同長官の発言及びイラン国営通信の報道、並びに15日のイラン外務省報道官による声明の概要は以下のとおり。

- ・実行犯のモハンマドハサン・モンテギー（ハールーン・モーニスの偽名を使用）は、旅行代理店をしていた1996年に詐欺罪を犯して逃亡し、マレーシアを経由して、オーストラリアに入国。
- ・イラン政府とオーストラリア政府は犯罪人引渡し協定を結んでいないが、イラン政府はインターポールを通じてオーストラリア政府に引渡しを要求してきた。しかし、これはオーストラリア政府によって拒否されてきた。
- ・イラン政府はモンテギーの精神状態については何度もオーストラリアの関係当局に情報提供を行っていたため、オーストラリア当局はモンテギーについて十分に把握していたはずである。
- ・西側のメディアは犯人について「イラン人」とだけ報じ、イランとイスラームを事件に結び付けようとしている。しかし、それは、オーストラリアがモンテギーを支援していた事実を隠そうとするものである。

評価

シドニーでの立てこもり事件については、犯人が「アッラーの他に神はない」と書かれた黒い旗を掲げるなどしたことから、「イスラーム国」などのイスラーム過激派との関連性が疑われた。しかしながら、これまでのところ、同人とイスラーム過激派とのつながりを示す証拠は見つかっていない。イラン当局の発表が正しいとすれば、彼は活動家というよりも、精神に異常をきたした犯罪者というのが、実像に近いだろう。

また、犯行にあたって組織的な支援があった形跡も確認できていない。仮に、犯人が「イスラーム国」などのイスラーム過激派のイデオロギーに共感を示していたとしても、同人がそのようなイスラーム過激派から組織的な指示を受けて活動を行った可能性は低いと見られる。

(村上研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799